

武石銀座のにぎわいを地域の力で取戻す事業

取組に至る背景・事業の目的

- 誰もが車で素通りしてしまうような小さな商店だけれども、元小林商店の昭和のゆがんだガラスの向こうから軽快なジャズが聴こえると、ふとアクセルを緩め、入ってみたくなる。そんなぬくもりのある街を創りたいという想いが事業の始まりです。
- 武石商店街はかつての賑わいは影を潜め、コミュニティーとしての場が武石地域から無くなりつつあります。そこで、武石風土つなぎ隊は、「つながろう、支えおう、元気プロジェクト」をメインテーマに掲げ、H25年より様々な趣味特技を持つ個人・団体と協働しながら、地域の賑わいを取り戻す活動を続けてきました。その成果は少しずつ形になっていると思います。
- R2年は、コミュニティーとしての確固たる場を商店街に取り戻すため子供から大人までみんなが集える拠点(つなぐ家)を作りました。



【「つなぐ家」の様子
～武石小学校2年生お買い物体験～】

事業内容

- 武石商店街にある空き店舗を活用して住民が気軽に立ち寄れる交流拠点「つなぐ家」を開設した。地域住民になじみのある小林商店の雰囲気を残し、整備した店舗内に大きな黒板を設置し交流スペースと販売スペースを設けた。
- 「つなぐ家」とその周辺で、H28年から商店街の空き店舗を利用した「武石おさんぼギャラリー」を続けて開催。R2年もライブやワークショップ、マルシェ、及び隣接の小学校体育館で子どもから大人まで楽しめる「第4回集まれ仮装大賞」を開催した。

事業効果

- 「つなぐ家」では地元農産物、日用品、手作り雑貨等を販売するスペースとジャズレコード鑑賞等の趣味で憩うスペースを設けたことで、世代を超えた交流、出品者・生産者との交流が生まれた。また、地元の人々や地域外の方々と新しいつながりが広がり継続的な賑わいを生み出すコミュニティーの場となった。
- 「つなぐ家」来店客数（7～10月のうちの3カ月間実績 1,029人、日平均 57名、月平均 343名）
「おさんぼギャラリー2020秋」来場者数 293人 前年対比 93人増（+47%）

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- コロナ禍において交流拠点を運営することに苦心した。閉店を余儀なくされた期間は、感染予防に気を付けイベントを縮小しての実施や、花束や朝採りもろこしを店前で販売する等で継続した。エリアトークで逐一オープンをお知らせすることでつなぐ家を耳から知ってもらい、住民に関心、期待を持ち続けていただくことを心掛けた。
- 「つなぐ家」開店日数を増やして欲しいという要望に対し、現在メンバーでの対応は難しいため住民主体でのスペース活用という形にした。現在ジャズ鑑賞会を毎週開催しているが、もっと様々なスペース活用を検討していきたい。
- 更なる賑わいを生み出すために、産直野菜の販売システムを構築し、食品加工なども行っていきたい。更に児童館や小学校が近隣にあることで作品展示、お買い物体験など教育機関との連携にも取り組む。
- 武石への移住定住を考え、情報の場、くつろぎの場、ネット環境の整備された場を念頭に古民家再生にも力を入れていきたい。

【選定のポイント】

- ・交流拠点を整備し、住民協働によるイベントを開催にすることにより、かつて賑わっていた地元商店街を復活させる契機となった。
- ・交流拠点を常設することにより、世代を超えた地域の交流が広がり、継続的な地域の賑わいを創出した。

団体名 武石風土つなぎ隊（上田市） 代表 柳沢裕子	事業タイプ ソフト・ハード事業
メールアドレス kt875854@zc4.so-net.ne.jp	事業費 1,205,876円
	支援金額 896,000円